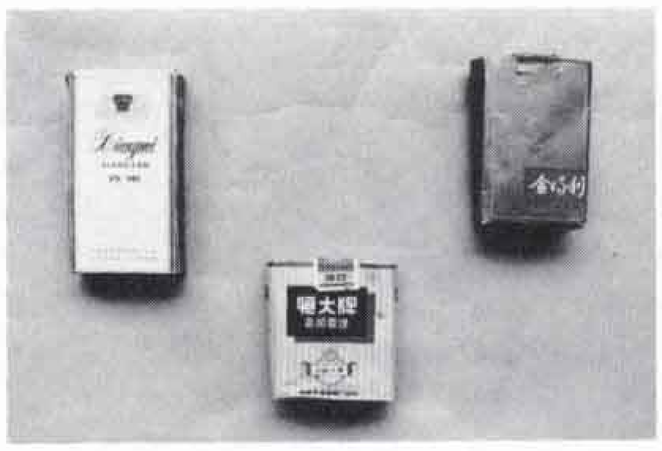
ニィハオ 你好 20

嘉興市



▷中国のたばこ

一般的な愛好品たばこ

日本では嫌煙権が次第に認知されつつあります。禁煙車、禁煙タイムなど愛煙家にとっては肩身の狭い場所がふえてきました。

ところが、中国社会では、たばこはコミュニケーションの道具として大きな役割を果たしています。

皆さんが、もし、嘉興市を訪れるようなことがあれば、もてなしにお茶とたばこを必ず勧められるでしょう。たばこを吸わないでいると、帰りにはそのたばこを持って帰るよう勧めてくれるはずです。

中国において、たばこは嗜好品というより、もっと一般的な愛好品といってよいでしょう。

愛煙家にとってはうらやましい限りの中国ですが、日本のように街に吸い殻が落ちていたりしません。また、混雑している場所などで喫煙している人も、あまり見かけません。愛煙家のマナーは中国に軍配が上がりそうです。

ふるさとの昔話

山王神社の守り神 鮫島四郎宗家

旭化成の西側に「山王さん」と呼ばれる神社があります。「山王さん」の守護神は、昔、源頼朝に仕えた鮫島氏と言われます。今回は、この鮫島氏に伝わるお話です。

山王神社

いち早く駆けつけた宗家

治承四年八月十七日、源頼朝は伊豆の韮山で旗上げをし、まず最初に目代の山木判官兼隆を攻め滅ぼしました。このとき、頼朝の家来は、たった八十五人。その中に富士郡鮫島村出身の鮫島四郎宗家という武士がいました。頼朝はいち早く駆けつけた鮫島四郎宗家に厚い信頼を寄せました。

その後、鮫島四郎は十月二十日の富士川の合戦にも参加しました。道案内として活躍し、だんだん重く用いられるようになりました。

誤って味方を切る

それから数年後、頼朝は甲斐源氏武田信義の長男の一条次郎忠頼を謀反の心を持っているという理由で殺そうとしました。そして、酒盛りを開いて忠頼を呼び、大勢で忠頼を殺してしまいました。外で待っていた忠頼の家来は、主人が殺されたことを知り、激しい切り合いになりました。

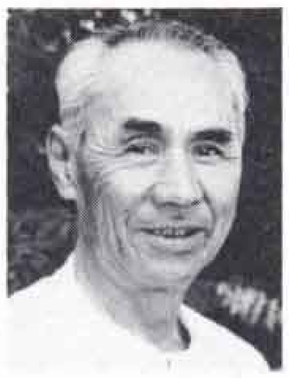
鮫島四郎はこの騒ぎの中で間違って味方を切ってしまいました。

頼朝は怒り、四郎の指を一本切り落としてしまいました。その上鹿児島へ領地替えをしてしまいました。その後、鮫島氏は島津氏に仕え、八千石の武士として長く子孫が栄えました。

※目代～鎌倉時代の地方官の代官

子孫が種子島に

山王神社の氏子総代で鮫島にお住まいの志村安信さん(六十四歳)は「昭和五十七年ごろ鹿児島県の種子島に住んでいる鮫島さんという人が、お参りに来ました。鮫島さんは自分のルーツをたどったところ鮫島四郎にたどりついたようで、この話は真実性があるよ」と語ってくれました。


▷志村安信さん

地名の由来

天間

天間村は明治二十二年に厚原村、久沢村、入山瀬村と合併して鷹岡村になりました。その成立は非常に古く、厚原村や久沢村と同じころと思われます。

この村の産土神を天満宮と言いますが、村名の「天間」は天満宮の天満を書き替えたものと言われます。したがって初めは天間村を天満村と書いたようです。天間村や久沢村、厚原村には、なぜか曽我兄弟の遺跡が多くあります。

△天間の産土神天満宮

こちら編集室

広報広聴課には広報ふじなどを発行する広報広聴係と統計係があります。夏休みの宿題に統計係のデータは便利のようで、この時期小さなお客さんがたくさん来ます。最初は友達同士で来ますが、終りごろは親が一緒に来て、「一体だれの宿題だったっけ?」という雰囲気になります。チビッ子の皆さん、宿題は早目に!!

発行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123
編集・総務部広報広聴課
人口 220,635人　男 109,492人　女 111,143人
世帯数 63,689世帯
(7月1日現在)